

「第5回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

平成 26 年 1 月

産業日本語研究会世話人会

顧問:長尾 真 (京都大学名誉教授)

代表:井佐原 均 (豊橋技術科学大学)

辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア研究所)

橋田 浩一 (東京大学)

隅田英一郎 (情報通信研究機構)

横井 俊夫 (日本特許情報機構 特許情報研究所)

潮田 明 (奈良先端科学技術大学院大学)

松田 成正 (日本特許情報機構)

開催趣旨:

産業日本語活動の次のステップに向けて

「産業日本語」とは、情報を正確に伝達できるような情報発信力の強化、そして、コンピュータ処理されやすいような知的生産性の向上に資する産業や科学技術の記述に用いられるべき、日本語の枠組みです。

産業日本語研究会は、情報発信力の強化や知的生産性の向上を目的とし、各種取り組みを行ってまいりました。他方、日本語を客観的に分かり易く用いるための取り組みは各方面で行われています。例えば、特許、法令工学、翻訳、テクニカルコミュニケーション、システム開発などの分野です。

昨今の技術開発競争や市場の急速なグローバル化を背景に、日本企業にとって海外展開の必要性が増加しています。それに伴い、グローバルな活用場面を想定した産業技術文書(特許明細書、論文、説明書、報告書など)は、正確かつ円滑な情報発信力と知的生産性の向上がこれまでも増して強く求められ、前述の各分野における組みの果たす役割は、今後も益々増大するものと考えています。

産業分野・科学技術分野における情報発信力や知的生産性の向上に資することを目的とした「産業日本語研究会・シンポジウム」をこれまで4回にわたり開催し、わが国産業界全体の国際競争力の強化に資する日本語の枠組みのあり方について総合的な議論を行ってまいりました。このような活動を通じて、「産業日本語」を含む日本語を客観的に分かり易く用いるための取り組みが、知的財産の積極的な取得・保護・活用や企業の海外展開を支える基盤として、重要であることが浮き彫りになりました。

今回で5回目という節目の開催を迎え、本シンポジウムでは、日本語文書を客観的に分かり易くするためのライティング等にかかる取り組みのご紹介の場として、各分野における主要機関・団体の活動をご講演いただきます。これらの機関・団体とご参加の皆様が一堂に会することにより、多様な視点を共有することができ、正確かつ円滑な情報発信力の強化に資する議論が深まるとともに、産業日本語活動においても、次のステップにつながるものと考えております。

皆さまのご参加をお願いいたします。

事務局担当:高度言語情報融合フォーラム(ALAGIN) 事務局